

JAMA Network Open に掲載された論文、その一部

小児における自閉症スペクトラム障害と食物アレルギーおよびほかのアレルギー状態との関連

調査結果

この研究は、1997年から2016年にかけて、アメリカ国民健康聞き取り調査に協力した3～17歳の子供199,520人によるデータをもとに行なわれた。

食物、呼吸器、皮膚アレルギーを持っている子供は、アレルギーのない子に比べて、自閉症スペクトラム障害（ASD）を持っている傾向にあった。

要約

【重要性】

米国における子供のASDの罹患率はこの数十年間に増加してきている。近年、免疫学的機能不全がASDに関連する因子として浮上している。

ASDを有する子は胃腸障害を持っていることが多いが、食物アレルギーとASDの関連についてはほとんど知られていない。

【目的】

米国における子供の食物アレルギーおよび他のアレルギー状態とASDの関連を調査すること。

【結果】

199,520人の子供で分析した結果、8,734人(4.31%)に食物アレルギーが、24,555人(12.15%)に呼吸器系のアレルギーが、19,399人(9.91%)に皮膚アレルギーが認められた。ASDの診断が1,868人報告された。食物、呼吸器、皮膚アレルギーの有病率は、ASDと診断されなかった子供（それぞれ4.25%,12.08%,9.84%）と比較して、ASDと診断された子供では高く（11.25%,18.73%,16.81%）なった。

年齢、性別、人種・民族、家族の最高学歴水準、家族所得水準、地理的地域、その他のアレルギーの相互調整を行なったうえでの分析では、アレルギー状態とASDとの関連は依然として有意であった。

【結論と関連性】

米国の子供の全国的に典型となるサンプルでは、一般的なアレルギー状態（特に食物アレルギー）とASDの有意で正の関連が見出された。因果関係と根底にあるメカニズムを解明するために、さらなる調査が必要である。